



「白雲幽石を抱く」總持寺前貫主梅田信隆禪師筆

山 深い峡谷に居を定め、悠然と自然の中で暮らす風景を詠んだ、寒山詩の一節。閑居の中、切り立った岩山を白い雲が包んでいる風景が寒山の庭。作られたモノで溢れる時代に、大自然の中に仏の営みが浮かび上がってくる。窓の外に浮かぶ雲も、心ひとつで、あなたの庭になるのだ。

今月の予定

▼日曜寺子屋

5月15日(日) 朝6時~ 於: 安洞院
朝の読経の後、東堂による講話があります。

▼安洞院写経会

5月21日(土) 午後3時~ 於: 安洞院
会費500円 筆、道具はお寺でご用意します。

▼ご詠歌(曹洞宗の梅花流詠讃歌)

《全国奉詠大会》
5月17日(火)~19(木) 於: 富山県
ご参加の講員の皆様、よい研修を!
《練習会》
5月25日(水) 午後2時~ 於: 安洞院
見学ご希望の方はお問合せください。
ともに仏様へのお唱えを通して交流しませんか?

▼安洞院華道会

5月10(火) 午後1時・25(水) 午前10時
於: 文知摺 講師: 龍生派・桐山千峯先生

おしらせ

▼第2回曹洞禅フォトコンテスト 募集中

応募締切 6月30日

◎安洞院での写真を応募して見事入選された方には、副賞として記念品を贈呈いたします。ふるってご応募ください。新緑の時期は境内がきれいです。

▼東日本大震災ふくしまこども寄附金について

この寄附金は福島県の事業で、東日本大震災で親を失った子どもたちの支援や県内の子どもたちの教育事業に充てられます。安洞院では定期的な写経会の浄財やヨガイベントの収益等を集計して、来年の3月11日の慰靈法要後に県に寄附いたします。

現在募金額 12,500円(今年4月より)

トイレと修行

昨年の改修工事で安洞院のトイレが新しくなりました。男女ともに便座が一新され、バリアフリーのトイレにはオムツ交換台も設置、最新式の便座が導入されました。お年寄りから赤ちゃんまで、皆さんにご利用いただき、「便利になった!」との嬉しい声をあまた頂いております。

反面、ちょっとばかり困ったこともあります。最新式の便座にはセンサーが内臓されていて、個室に入ると自動で便座のフタが開きます。朝の掃除で雑巾掛けをするのですが、便座の周囲を拭こうとする時、ウイーンと音を立てて開くフタに何度も顔をぶつけました。しかしこちらも学習しますから、最近では開くフタをひよいと紙一重でかわして雑巾掛けをするようになりました。自分でも滑稽だなと思いつが、掃除をしています。

全自动なのはフタだけではありません。最

るようになってしまいました。何度か、うつかり流し忘れて気まずい思いをした経験があります。技術の進歩はありがたいと思う反面、やはり何かが欠落していくような気がしてなりません。そのうちに、ズボンも脱がせてくれるトイレまで出てきそうです。

自動で流れるトイレによって自分の便を見る機会も極端に減りますが、これは健康管理の面から、少々危惧を感じています。赤ちゃんのおむつを替える際、便の状態をじっくり見て体調を判断しますが、大人にとつても便の状態は健康のパロメーターです。個人的な話になりますが、漢方と食事療法に本格的に取り組んでいた時期には、医師の指導のもと、便の状態のチェックが欠かせませんでした。

臭い物にフタをすることで、生活は快適で

まいにするのは難しいこと、それを丁寧に行

うことによって、トイレすらも修行の道場と

している道元禅師の精神性が見えてきます。

ということで。あたりまえのことを見た

まえにすることは難しいこと、それを丁寧に行

うことによって、トイレすらも修行の道場と

している道元禅師の精神性が見えてきます。

臭い物にフタをすることで、生活は快適で

便利になるかもしれません、そこに忘れては

いけない何かがある気がします。自動車、パ

ソコン、何でもそうですが、文明の享受とい

うことは人間が常に試されているのだと思い

ます。今日もまた、勝手に開く便座のフタを

ひよいとかわしながら、お参りの皆様を迎えるべく、掃除に精進いたします。

合掌

安洞院住職
横山俊頭

新式のトイレは、流すのも全自動。便座から立ち上がると自動で流してくれるのです。流し忘れがなくなりました。しかしこれもまた中々の曲者、立ち上がって流す必要が無くなってしまった故に、外のトイレなどで流し忘れをす

るようになってしまいました。何度か、うつか

り流し忘れて気まずい思いをした経験があり

ます。技術の進歩はありがたいと思う反面、

やはり何かが欠落していくような気がしてな

りません。そのうちに、ズボンも脱がせてく

れるトイレまで出てきそうです。

道元禅師の『正法眼藏』「洗淨」の巻には、

「両辺を汚すことなけれ」(トイレの両脇を汚

してはいけない)という教えが示されています。

生活のすべてが仏道の修行、それゆえに、誰

も見ていないトイレの個室の中で、毎日お世

話になるトイレとどう向き合い、用を足すか

ということです。あたりまえのことをあたり

まえにすることは難しいこと、それを丁寧に行

うことによって、トイレすらも修行の道場と

している道元禅師の精神性が見えてきます。

臭い物にフタをすることで、生活は快適で

便利になるかもしれません、そこに忘れては

いけない何かがある気がします。自動車、パ

ソコン、何でもそうですが、文明の享受とい

うことは人間が常に試されているのだと思い

ます。今日もまた、勝手に開く便座のフタを

ひよいとかわしながら、お参りの皆様を迎えるべく、掃除に精進いたします。

合掌

行事・活動報告

▼曹洞禅フォトコンテストはじまる

第二回目となる曹洞禅フォトコンテストの応募が始まりました。曹洞宗の公式写真コンテストです。腕に自信のある方はどうぞ。ご希望の方には詳しい案内と応募用紙をお送りいたします。

曹洞宗公式サイトからも応募できます。
<http://www.sotozen-net.or.jp/event/photocontest02>

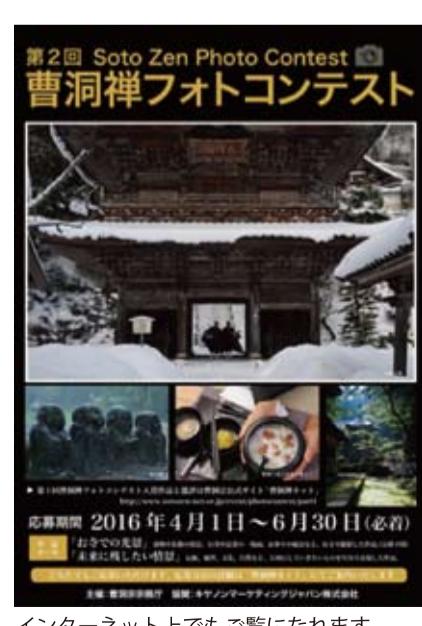
▼応募資格: どなたでも可

▼応募のテーマ (いずれかを選択)

- ①お寺での光景: 建物や仏像、行事や法要の一場面、お参りの風景など。

- ②未来に残したい情景: 伝統、風習、文化、自然など、大切にしたいもの

- 規定期: プリント作品(サイズはA4、六切、六切ワイド) カラー・モノクロ。



インターネット上でもご覧になれます。

Topics 1

書家の金澤翔子さんが
安洞院に参拝しました。

~ 東日本大震災慰靈法要 ~

書 家の金澤翔子さんが安洞院に参拝され、本堂にて席上揮毫（書のライブ）を披露しました。2メートル四方の大きな作品には力強く「飛翔」と揮毫され、多くの人々がその筆跡から力をいたいたしたことと思います。お母様である泰子さんとの共同作業で書き上げた時には、会場が大きな拍手に包まれました。

ダウン症の書家である金澤翔子さんは東日本大震災以降、仕事以外にも何度も被災地に足を運び、30回以上の訪問を続けて来られました。今回は福島信陵ライオンズクラブの総会が安洞院で開催されるにあたり、株式会社トーカンオリエンス様のご縁から、安洞院への訪問が実現いたしました。仏縁に深く感謝申し上げます。

東日本大震災の慰靈塔前で読経し、お線香を手向けていただきました。眼に見えない原発事故後の福島の現状についての話も交えながら、深く心を寄せて頂きました。

本堂では訪問の記念に「感謝」という書を安洞院にご寄贈いただきました。現在額装に出しておりますが、末永くお寺に飾り、守り伝えてまいります。お参りの際にご覧ください。

▼金澤翔子公式ホームページ

http://www.k-shoko.org/



▲席上揮毫。終了後は記念撮影も行われ、参加者と一緒に楽しそうに写真を撮る金澤さんの姿が印象的でした。 写真：渡邊清一郎

Topics 2

梅花講の皆さんと
花まつりを祝う

~ 梅花講から ~

お 駿迦様の生誕を祝う花まつりが、4月8日、安洞院本堂にて梅花講の皆さんとともに奉修されました。一同にお駿迦様の生誕を祝い、住職よりお駿迦様誕生の縁起や仏縁の尊さについての話、原始経典の中に見るお駿迦様の教えについての法話が行われました。

安洞院梅花講には、黒澤繁子さん、伊藤容子さんの2名の講員さんが新たに入会されました。お唱えを通して仏の教えをともに学んでいく梅花講。お茶飲み話も皆さんの愉しみの一つです。新入会員随時募集中ですので、ご興味のある方は見学だけでもお参りください。



安洞院では日曜寺子屋も開講中です。こちらは前住職・東堂による講話と、朝の読経を行っています。毎月第3日曜朝6時、参加無料です。

Topics 3

~ お寺でヨガの会 ~

ヨ ガの会が数年ぶりに開催され、平日にもかかわらず満員御礼、20代～80代の30名がヨガと坐禅で身体をほぐした後、お楽しみのインドカレーを食しました。インドカレーに使われるスパイスも、実はお香の原料。そんな話も交えつつ、新緑の穂やかな日のヨガの会「テラヨガメシ」は幕を閉じました。

インドカレーは、住職の古くからの友人・芳賀眞氏が店主を務める、福島市大町のCurry dining bar 笑夢から出張。本格的なベジタリアン精進カレーをご提供頂きました。豆を煮こんだカレーが絶品でした。

次回は6月に開催を予定しています。健康を見直して、美味しいご飯を食べる企画は今後も続けていきます。初心者の方も、老若男女大歓迎ですのでお誘い合せのうえご参加下さい。



▲風が心地よく、イビキをかいて寝る方の姿も…



住職雑感

熊 本地震で被災された方にお見舞い申し上げますと共に、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。5年前私たちが助けられたように、安洞院としても出来る限りの物心両面にわたる支援を行いたいと考えております。今後、宗派を通じた義捐金などを活用し、被災され復旧が困難な寺院へ直接届けて頂ければと思います。一日も早い復興を願わざにはいられません。▼お寺のフェイスブックページ随時更新中です。スマホにて右のQRコードからどうぞ。パソコンはhttps://www.facebook.com/zen.antouin

